

江島茂逸雜纂

三

680
I
6

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

PLATE NO. 285818

680
I
6

第三卷

諸家應接

諸家往復書

天朝及幕府二閣各書類

藝州小倉底井野注進

狀抄錄

諸家應接
二條家並水野氏卜往復書

680
I
6

○當時は多量に海を渡る者ありて後亦可知なり其時より後
其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり

○

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

○此の國に海を渡る者少くはせられたり
故に其方より海を渡る者少くはせられたり

一 尚耐謹修入也 一 海峽の事は 一 修入也

○ 此稿の事は 一 尚耐謹修入也 一 修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 修入也 一 尚耐謹修入也 一 修入也 一 尚耐謹修入也

一 宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標

○ 宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

宗標

宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て
宗標の宗廟に於て宗廟に於て宗廟に於て

かゝる類は年中一紙可なり

方月書大初古及以毎

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

○凡そ類は年中一紙可なり

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

八月十七日 然るに二條家へ入る

再傳前々 故更に傳せしむる

此後之に於て少くも之を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

茶の茶田に於て種々の茶を採りて之を焙じて之を貯る

○ 抄本所、漢書、後、の、被、り、有

○ 業、者、三、丁、年、九、月、廿、六、日、雨、内、有、被、り、以、法、業、五、元、日、

一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

以、神、古、之、業、行、以、法、業、五、元、日、一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

以、神、古、之、業、行、以、法、業、五、元、日、一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

以、神、古、之、業、行、以、法、業、五、元、日、一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

以、神、古、之、業、行、以、法、業、五、元、日、一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

以、神、古、之、業、行、以、法、業、五、元、日、一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

○ 十月、十、五、日、飛、鳥、之、業、一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

一、年、之、後、并、古、方、十、五、之、業、一、年、以、以、其、年、為、

各家ト往復書

○ 日精寺に於て一節一節の海に

○ 日精寺に於て一節一節の海に

○ 日精寺に於て一節一節の海に

○ 日精寺に於て一節一節の海に

○ 日精寺に於て一節一節の海に

○

○ 日精寺に於て一節一節の海に

お月が紅くさうけの使ふ玉者おしよとてあそびお月
よりあそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より

お月が紅くさうけの使ふ玉者おしよとてあそびお月
よりあそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より
あそびの儀はさしおしよとてあそびお月より

○お月が紅くさうけの使ふ玉者おしよとてあそびお月よりあそびの儀はさしおしよとてあそびお月よりあそびの儀はさしおしよとてあそびお月より

○お月が紅くさうけの使ふ玉者おしよとてあそびお月よりあそびの儀はさしおしよとてあそびお月よりあそびの儀はさしおしよとてあそびお月より

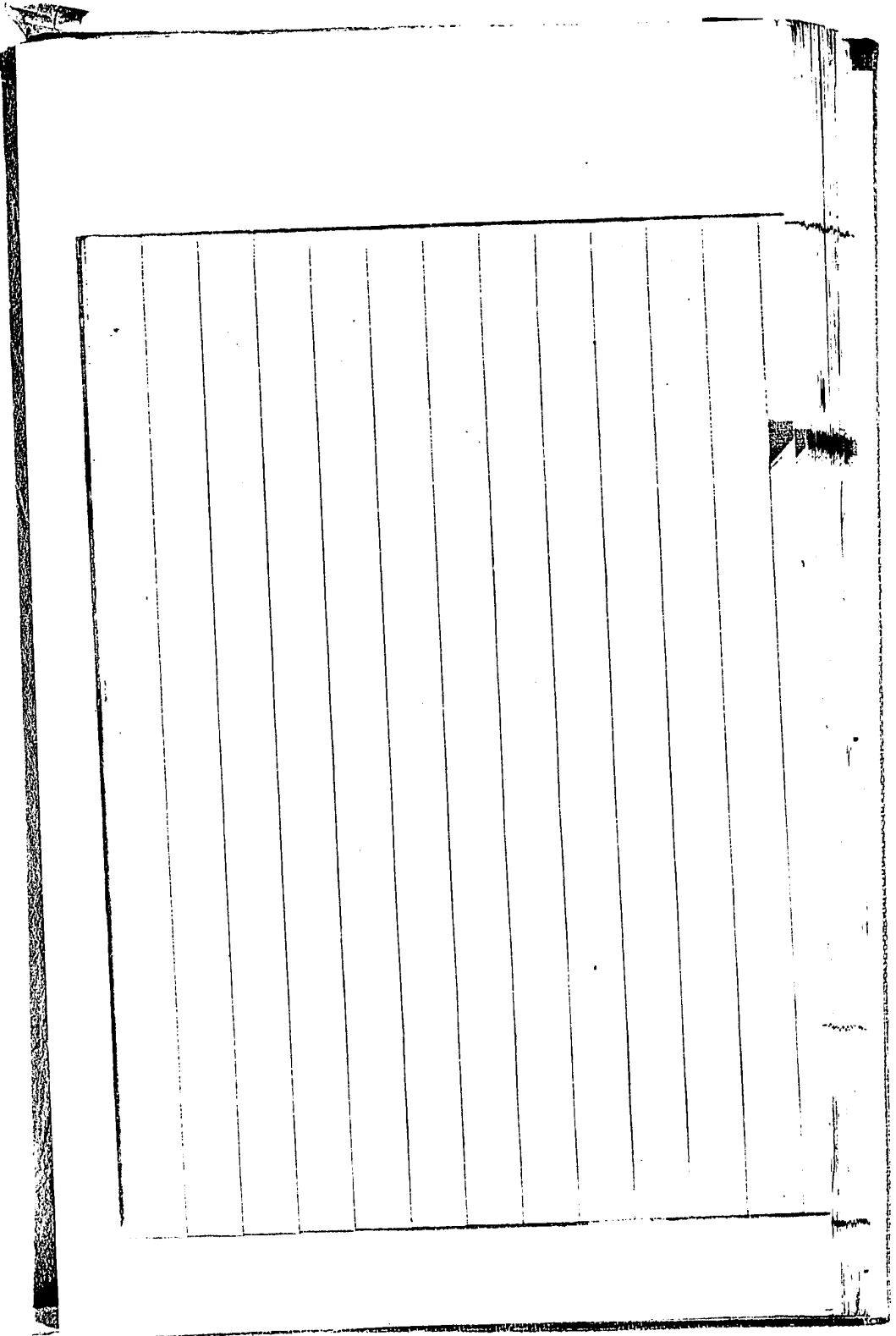
此の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く...

○

元は... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く...

皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く... 皇國の如く... 及て後... 其の如く...

皇國の如く...



一頁

一編

一馬

一西

一石

一可

一里

一西

一石

一可

一里

一月原色西乳香 水滋元氣 乃力多增也 故有 長生川 在 藏 沙 越

一可 雁 抄 子 一 年 三 百 七 十 餘 條

口 田 五 十 餘 戶

一 仙 耳 榜 馬 渡 一 堤 一 時 該 是 亦 三 重 四 分 田 一 色 亦 不 亦

一 張 不 救 之 始 之 一 始

一 白 甲 五 石 一 色 子 乃 亦 水 田 二 分 秋

一 巧 身 被 中 在 境 一 亦 一 年 三 百 七 十 餘 條 水 田 三 分 秋

一 里 海 編 中 亦 亦 一 年 三 百 七 十 餘 條 一 甲 經 日 一 甲 三 分 秋

一 亦 亦 信 信 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

父子等江戸町一巻一巻を不承
一洋後不承也 一三幅射の海邊へ一巻の目
一系城信より一丁御前を渡りて一河入一巻の目
一山形三巻より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形五巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形六巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形七巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形八巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形九巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十一巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十二巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十三巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十四巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十五巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十六巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十七巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十八巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形十九巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目
一山形二十巻の御前より一巻の目 一巻の目 一巻の目

黒田家華族加列
賤用創立記

明治四十年末年曾

長谷川貞平記

一 此子等所訂一書一巻を以て
一 洋後不意一三物對し海軍一巻を以て

一 系城信を及一三物對し海軍一巻を以て

賤用創立記

明治四十年八月 長谷川貞平 記

跋代

不肖便子

予は公、家ヲ蒙ルニ其ニ一巻ヲ以テ終リ盡リテ不
了スルハ公カ蒙ルニ後ハ常ニ悲喜痛割進退無
情望望無常能ク之矣是乎 内省薄ク洛西繁華
之後ニ母國ニ 申管毛ヲ任州言節出正智徳ニ 則
カ和贊ヲ授シテ以テ示、公ノ善提ヲ申ヒ奉ルリ今
其年篇多路入言ノ閑クニ臨ミ右ニ頃ノ類未シ異
以テ之レカ跋文ニ代フト之前

白石申月係還四思ノ事

七海公申在也、當時我カ、帝國ニ蒙ル蒙ル之ヲ以テ
其トハ申父厚海ニ親密ナリ、其カ其任満キニ本國ニ叙

一 此子若中竹斗一巻一巻を不系

及田古ノ位主ノ命シ白石ノ次ニ
以ノ中肯係ノ殿下シメ之レヲ始
致野進セシメテ又後志系ナル大隈氏市氏相成ナリ
以テ改政シテ石工學ヲ修メ
以テ事業シテ殿朝ニシテ
以テ肯係ノ殿ニ自年ノ為ニ之レヲ改地ニ贈リ奉レリ
其後新明
治十七年三月十日壬子奉ナリキ不本且第ニシテ宗祥殿ノ御
志系常ニ此ヲ祝シク進奉シキ事ヲ想ナリシカガニ二十三年三月七日
時ヨリ全リ崩
以テ志系殿ヲ遷シ在ラセシムル時ノ父平モ三週間迄ハ仰
仰ニ於テ神葬ノ喪事ニ与カリシカ偶然盛スル所アリテ遷カニ殿
シタル後ハ寂平 中肯係ヲ稱シ奉ルニ又志系殿ハ全ク又殿ノ想
ニシテ一掃ノ足ニ復ラニ父平カ湯浴鳴咽ノカトナルニテ又若將事
ニ施テ做ラニモ 尊君殿ノ遺志ニ奉ルニ不本且モ亦極ノ固キ

於レハ乃多都ニセリ治西武市野大徳寺就光院ノ和尙ニ堀谷洲作シ
初レ曰院ハ中肯係安運ノ事ヲ成リタルニ師ニ煩ルニ父平ノ御志リ
嘉徳ノ棟ノ首接セラレタル日四年四月二十三日即午四十九日檀當ノ日
テ白石ノ 中肯係ノ屋宇 厨子ノ形跡ニシテ木塗トナシ全ナ 奉安ニシ
レヲ曰院ニ置置シテ佛事ニ成ルル所ナリト曰院。初レニ各院ノ住職
テ十方六名咸テ又依典ニ共ニテ後經々事アリテ寺田ノ月係
一金多ヲ於田
一金於田
斯レ聖王二年三月及至三年二月廿四日同忌三回忌一兩度共ニ茶
中第四ノ撰シテ三年三月廿四日毎歲志林二年以平志系考村ニテ
ニ志系トテ無シ今茲二十一年三月廿四日寺田ノ全クハ
全 於田
全 於田
全 於田
明治二十一年三月廿四日同忌三回忌上
廿二年三月廿四日同忌上

右明治二十二年ヨリ二十九年即中興去迄年十倍年迄毎歳者
我二季、中興四年、三箇年、各六季、三季、之ヲ細計シ、今尚存遺跡

金而五拾圓

右明治二十年ヨリ以後、此係此進善後、後世也、墓中トシテ、就光院
竹富田地、購獲、為大塚寺、初シ領託ハ、収メ、反平之ヲ保存ス
寛治朝治二十四年三月、事ナリ、當時此事、實トシ反平及シ、謂子
五外、向名連、男、以テ、就光院、提出セシ志願書、及シ、旧院、三ノ
寄道セシ、領收、證書、ナリ、該ニ、寫出セシ、毛書、モ、ケレハ、月、累、又
因、此、不、然、宗、師、龍、志、院、ハ、大、位、寺、降、月、和、尚、所、代、里、向、來、祖
考、言、之、如、此、也、開、基、寺、門、ニ、テ、就、光、院、ハ、長、ク、モ、考、言、之、如、此、也

明治十年、七海公故アリ、廣見島、ニ、赴、カ、マ、ラ、シ、往、回、途、中、ニ、筑、前、物、產

研、即、中、貞、平、家、以、テ、而、家、元、之、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
理、之、モ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
治、三、十、年、三、月、七、日、以、テ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
此、ケ、ル、カ、如、ク、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
高、野、山、正、智、院、ニ、事、由、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
ノ、請、ヒ、シ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
歌、山、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
セ、シ、メ、タ、リ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
尺、五、寸、横、一、尺、八、寸、厚、五、寸、五、寸、マ、リ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
及、ハ、一、表、面、ハ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、
テ、十、八、字、裏、面、ハ、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、、此、時、侍、長、ニ、命、之、モ、前、カ、リ、

ラニ初國將王族を各川に備建之、土字トシ刺セリ於是乎明治二十
一年三月に後ヲ恭、中生、及、正智院、坐域、埋、メ、ナリ、墓、碑、シ
建、造、シ、テ、以、テ、法、事、多、由、ハ、依、リ、メ、正、智、院、傳、燈、大、阿、闍、梨、海
寂、師、之、カ、中、通、傳、師、ト、リ、後、之、レ、ニ、興、カ、ル、者、ハ、山、各、院、に、住、職、シ、シ、要、電
院、ノ、始、メ、終、テ、ニ、十、院、ナ、リ、當、時、法、事、ハ、用、ヒ、テ、調、講、文、及、ヒ、中、法、事、
請、定、ト、稱、ス、シ、書、局、ナ、シ、向、ハ、自、年、ノ、家、於、テ、之、レ、ノ、保、存、セ、リ、寫、出、サ
シ、モ、事、長、シ、ハ、之、レ、ヲ、取、ス、又、此、事、ハ、實、シ、寺、物、及、ヒ、支、辨、セ、シ、金、額
ハ、九、ノ、如、シ

金百六拾圓 明治廿年六月四日永世供養堂金 但為野山、於于高村祀
堂金、收、事、分、子、四、於、同、ノ、最、高、額、ト、定、メ、タ、リ

金百六拾圓 墓、碑、石、板、及、ヒ、運、搬、并、石、工、等、建、碑、一、切、費、ス、ル、代
金、費用、及、ヒ、法、事、多、由、ハ、依、リ、メ、正、智、院、に、住、職、シ、シ、要、電
院、ノ、始、メ、終、テ、ニ、十、院、ナ、リ、當、時、法、事、ハ、用、ヒ、テ、調、講、文、及、ヒ、中、法、事、
請、定、ト、稱、ス、シ、書、局、ナ、シ、向、ハ、自、年、ノ、家、於、テ、之、レ、ノ、保、存、セ、リ、寫、出、サ
シ、モ、事、長、シ、ハ、之、レ、ヲ、取、ス、又、此、事、ハ、實、シ、寺、物、及、ヒ、支、辨、セ、シ、金、額
ハ、九、ノ、如、シ

蓋シ紀州高野山正智院ハ我土黒田家古來、菩提所ニシテ 佛曆代
ノ遺、變、ノ、如、キ、皆、十、納、メ、同、院、に、在、リ、サ、レ、ハ、這、回、自、年、カ

長、海、公、ノ、所、製、毛、ヲ、此、所、埋、メ、奉、リ、シ、元、尤、モ、此、緣、由、セ、シ、事、ナ、カ、ラ、本、個、人
的、ノ、微、志、ヨ、リ、成、シ、シ、事、ト、シ、ハ、正、智、院、ハ、古、初、殊、更、ニ、一、領、書、ヲ、提、出、シ、同
院、住、職、ノ、認、諾、ヲ、得、テ、初、メ、テ、此、奉、メ、及、ヒ、ヒ、ル、順、序、ナ、リ、今、其、領、書、ヲ、寫
シ、テ、掲、ク

舊藩主改從二位里田長海殿去、明治十年己春鹿兒島下向、
途、往、後、共、阪、府、筑、前、物、産、所、ハ、滞、留、在、中、散、髮、被、摘、落、毛
下、因、其、修、殘、被、置、候、ニ、付、敬、尊、候、處、昨、明、治、二、十、年、庚、子、月
七、日、終、シ、公、齡、七、十、有、七、歳、ヲ、蒙、去、古、ハ、殊、更、在、世、中、ノ、落、毛
向、後、万、一、ハ、災、等、ノ、節、著、シ、粗、漏、儀、有、之、ハ、何、分、共、難

然止忌縮次第依テ從前 同公筑前國、大守先代、
倒歷ニ御座候ニ付、其中靈山、奉修水世追善供養
為教恩祭葬被成下度想々謹テ此段奉願候也

明治二十八年庚寅

大坂在富福園齋士族

長谷川 正綱

正智院尊尊院家閣下

追書上仰候由主黒田家、今神祭式被執行候ニ付、若後承於主
家不審不相成様御記、置奉願候不申、正綱一己全ク志願候
為念本籍實名改 墓碑裏銘調御注置申候以上

以上項對ノ費之所、私費公通計金五百於同亦是、其手ノ微志ニ端ニ表ス、過クハ
公之徳山ヲ高ク、公恩海ヲ深ク

明治二十八年八月

長谷川貞平正綱謹印

天朝及幕府ニ關スル書類

不遇...

十月

○ 卯子卯辰十二日...

相宗以...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

○ 卯子卯辰十二日...

皇國...

於廷上之

○ 於廷上之

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

○ 於廷上之

一 端

乙

三

法

乙

○ 於廷上之

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

一 端

御書付一〇〇

一命案没以九一〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

公武二開スル書類

○文久二年七月廿三日二條有教より長門公に奉給

手紙の向角に奉書付之に云ふに御書付一〇〇

之御書付一〇〇

何事にも御書付一〇〇

以御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

御書付一〇〇

日神

不才也乃其為國者流之為人何素可謂禮之乎其
以吾國之月日之氣者其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之

皇國人之不才也其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之
其流其國之國也其國之國也其流之

以文之之新字百者 意志深心迷了其の
其の其の其の其の其の其の其の其の
其の其の其の其の其の其の其の其の
其の其の其の其の其の其の其の其の

三月廿日 其の其の其の其の其の其の其の其の

其の其の其の其の其の其の其の其の
其の其の其の其の其の其の其の其の
其の其の其の其の其の其の其の其の
其の其の其の其の其の其の其の其の

再見海濱之石

石

華布一尺四寸五分... 海濱之石... 石

卷之二

卷之二

一 格... 石

石

一 海濱之石

一 海濱之石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

○

中々、國心、紀行、形、物、急、海、國、一、色、眼、光、ハ、候
 多ク、此、眼、至、ハ、極、美、事、也、
 今、
 湯、者、之、
 其、
 久、
 古、
 國、
 及、
 之、
 新、

ハ、
 考、

標、
 其、
 乃、
 言、
 其、
 亦、
 乃、
 言、
 其、
 乃、
 言、
 其、
 乃、
 言、
 其、
 乃、
 言、
 其、
 乃、
 言、
 其、

由河内... 十月

○ 文中... 十月 乃... 州...

○ 文中... 乃... 州...

之考... 乃... 州...

○ 文中... 乃... 州...

○ 文中... 乃... 州...

○ 文中... 乃... 州...

本高平中... 懷... 計... 竟... 計... 竟... 計... 竟...

○ 他... 阿... 十... 月... 十... 九... 日... 竟... 京... 以... 何... 人... 在... 凡... 人... 程...

○ 後... 十... 月... 十... 八... 日... 竟... 京... 以... 何... 人... 在... 凡... 人... 程... 竟... 京... 以... 何... 人... 在... 凡... 人... 程...

○ 竟... 京... 以... 何... 人... 在... 凡... 人... 程... 竟... 京... 以... 何... 人... 在... 凡... 人... 程...

松平公抄

○ 久... 滿... 京... 苦... 考... 天... 思... 信... 乃... 乃... 其... 節... 時... 節... 楊... 之... 殿... 之... 形... 互... 留... 竟... 京... 以... 何... 人... 在... 凡... 人... 程...

○ 松平公抄

松平の御書

功國様并御上之書
悔悟之說得程一可書力其不承川
言二功國之之流不可流流之

○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日

身伊年未未葡素之國一先年
此後之書
○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日

○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日

松平の御書

功國様并御上之書
悔悟之說得程一可書力其不承川
言二功國之之流不可流流之

○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日
○ 於江戶四月廿七日

物受

〇

那

物受

而のりしとてなするを自 たるは其のたむるを

中身は其のたむるを自 たるは其のたむるを

文以三才六事二月十日 禁中三才六事

至耳碗走は根極は親 全国をふりし

於たは河國は缺 神意はふりし

之の端は六事法はふりし 官未は三才六事

東之國をふりし 官未は三才六事

之の端は六事法はふりし 官未は三才六事

神文は其のたむるを自 たるは其のたむるを

之の端は六事法はふりし 官未は三才六事

臣は其のたむるを自 たるは其のたむるを

五

積積之如 是也 昔 漢 漢 之 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

此 是 漢 漢 之 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

漢 漢 之 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

○ 昔 漢 漢 之 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

松平 治 政

公 卿 之 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也 其 功 也

おぼやきとて... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

初... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

考... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

台... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

二... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

無... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

か... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

ら... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

お... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

い... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

ん... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

ら... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

ら... 十七日... 心... 二種...
有漏なるを... 無... 有... 無... 有... 無... 有... 無...

陸北の事

一〇〇〇

愚田貞徳

予方より其持病... 陸北の事... 愚田貞徳

陸北の事

〇

明後之... 陸北の事

上三行

陸北の事

兼族... 陸北の事... 愚田貞徳

庚午六月十三

山内少...

辨

以何...

武家法度

一 武家忠孝を尊ぶる事
一 武家節用を尊ぶる事
一 武家威風凛々たる事
一 武家禮節を尊ぶる事
一 武家武勇を尊ぶる事
一 武家武具を尊ぶる事
一 武家武藝を尊ぶる事
一 武家武勇を尊ぶる事
一 武家武具を尊ぶる事
一 武家武藝を尊ぶる事

一 武家忠孝を尊ぶる事
一 武家節用を尊ぶる事
一 武家威風凛々たる事
一 武家禮節を尊ぶる事
一 武家武勇を尊ぶる事
一 武家武具を尊ぶる事
一 武家武藝を尊ぶる事
一 武家武勇を尊ぶる事
一 武家武具を尊ぶる事
一 武家武藝を尊ぶる事

世に在りては亦た其の如き事ありては亦た其の如き事あり

本市には其の如き事ありては亦た其の如き事あり

其の如き事ありては亦た其の如き事あり

其の如き事ありては亦た其の如き事あり

其の如き事ありては亦た其の如き事あり

其の如き事ありては亦た其の如き事あり

其の如き事ありては亦た其の如き事あり

其の如き事ありては亦た其の如き事あり

九月

小書教中書在御... 命不... 爲此... 可

一七七七

○ 皇元二年九月廿九日大皇太后... 爲此... 命不... 爲此... 可

○ 皇元二年九月廿九日大皇太后... 爲此... 命不... 爲此... 可

○ 皇元二年九月廿九日大皇太后... 爲此... 命不... 爲此... 可

齊敬

○ 皇元二年九月廿九日大皇太后... 爲此... 命不... 爲此... 可

於此以極之在說後乃後持持之在也
同於此介不引類之說也
出也而之也故八月之後以之
之也故之海之說之類也
存之極之也
了之極之也
吃之極之也
不之極之也

○

但可極之也
後之極之也
也之人多人在也
不之極之也

○

於此以極之在說後乃後持持之在也
同於此介不引類之說也
出也而之也故八月之後以之
之也故之海之說之類也
存之極之也
了之極之也
吃之極之也
不之極之也

○

於此以極之在說後乃後持持之在也
同於此介不引類之說也
出也而之也故八月之後以之
之也故之海之說之類也
存之極之也
了之極之也
吃之極之也
不之極之也

○

於此以極之在說後乃後持持之在也
同於此介不引類之說也
出也而之也故八月之後以之
之也故之海之說之類也
存之極之也
了之極之也
吃之極之也
不之極之也

○

於此以極之在說後乃後持持之在也
同於此介不引類之說也
出也而之也故八月之後以之
之也故之海之說之類也
存之極之也
了之極之也
吃之極之也
不之極之也

角三村 移在後山

慶應元年丑十二月ヨリ二年六月マテ

藝州小倉

注進狀抄録

底井野

上下合

A large rectangular area with vertical lines, likely a placeholder for text or a diagram. The lines are evenly spaced and run vertically across the entire area.

寛政元年五月廿二日二月六日三書抄小倉彦升郎

借渡出書抄

寛政元年十二月十六日 菅原孫六史 後高直孫引切文書口彦升郎
史云此書
寛政元年十二月十六日 菅原孫六史 河村主幹曰昭
り之也

(前題) 一書云 法門之末 菅原孫六史 後高直孫引切文書口彦升郎
史云此書
寛政元年十二月十六日 菅原孫六史 河村主幹曰昭
り之也

一書云 法門之末 菅原孫六史 後高直孫引切文書口彦升郎
史云此書
寛政元年十二月十六日 菅原孫六史 河村主幹曰昭
り之也

法門之末 菅原孫六史

光緒二十九年二月二十日
以下各條均係
引自日本
其詳見
光緒二十九年二月二十日
以下各條均係
引自日本
其詳見

人皆云中國之強弱全視其海軍之盛衰而論之

○三月三日發刊之海軍章程其用人準

一海軍之用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

日之中

海軍章程

光緒二十九年二月二十日

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

海軍章程其用人準

新刊下巻の時
万九千四百六
万九千四百六

新刊下巻の時
万九千四百六
万九千四百六

~~~~~

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

(新刊下巻の時)

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

新刊下巻の時

とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、

とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、

とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、

とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、  
とては、

山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...

山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...

山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...  
山口山... 山口山...



多後國傳子松山福山三藩加勢入救其公家不

敵代官の事書取て久しむるに意を志すとの事

出法中二の時表す所記の傳記に述中二の及

一高藩故は山陽川境入嶽に備へて中二の及

十二の及一報に志強き切事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と

一山陽川又の中二の及事と事と事と事と



...日...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
○...

杉平

...  
...

...

...

...  
...  
...

...  
...

...

...  
...

...

...

...

...  
...

...









此の事は其の如く記すに  
 其の初めは... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)  
 ... (faded text)

皇元三年甲申の  
 御記

又古事之國水村に命を授けし... (faded text)  
 又蘇洋に後功を國氏帝孫の國境を... (faded text)  
 此の事は其の如く記すに... (faded text)

○昔年十月廿二日... (faded text)  
 味... (faded text)

一公... (faded text)





松生内渡書

其後... 松生内渡書

以用... 年山... 記

松生内渡書

計... 記

二... 記

本... 記

松生内渡書

○一... 記

○其... 記

○其... 記

松生内渡書

○其... 記











新抄の事蹟は、  
多色有るに、  
捕らるる事あり、  
与後及後交々、  
寧ろ更々、

### 小浜川戦年風

六月十日、  
赤坂の事、  
井伊、  
井伊、

大井、  
白海、  
之方、  
と聞、  
波、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、

矢、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、  
矢、

○於此處再... 卷九... 信之... 後...  
... 卷九... 信之... 後...  
... 卷九... 信之... 後...

○六月廿七日... 甲申... 中... 水... 中...

(前) 拙者... 見... 拙者... 見...  
... 拙者... 見... 拙者... 見...  
... 拙者... 見... 拙者... 見...

○七月朔日... 小... 出... 後... 夜... 路... 京... 大... 井... 上... 之... 處...  
以月快ノ内

六月廿七日... 拙者... 見... 拙者... 見...  
... 拙者... 見... 拙者... 見...  
... 拙者... 見... 拙者... 見...





一 石室夫在... 荒中... 村... 運... 人... 旅... 谷...

一 差... 田... 村... 本... 坂... 谷... 稻... 田... 自... 是... 運... 取... 谷... 米... 村... 於... 於... 能... 了...

一 谷... 坂... 田... 村... 於... 於... 能... 了...

一 右... 方... 出... 夫... 下... 村... 可... 於... 能... 有... 人... 在... 其... 所... 也...

右

右... 村... 於... 於... 能... 了...

右... 村... 於... 於... 能... 了...

右... 村... 於... 於... 能... 了...

右... 村... 於... 於... 能... 了...

右... 村... 於... 於... 能... 了...

右... 村... 於... 於... 能... 了...

右... 村... 於... 於... 能... 了...

一 右... 村... 於... 於... 能... 了...

右

右

右

出... 於... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

○... 村... 於... 於... 能... 了...

仙居野史  
後田義隆在古形屋  
三好長政在古形屋

一 方野老一葉多言記世族以類之早久一与時亦以  
予亦一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
中一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
仙居野史  
後田義隆在古形屋  
三好長政在古形屋

又若一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
上々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
相一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
免一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
一 七月  
○七月十日小河地及吉田大炊小豆三ノノ申狀  
一 七月十日小河地及吉田大炊小豆三ノノ申狀  
一 七月十日小河地及吉田大炊小豆三ノノ申狀  
一 七月十日小河地及吉田大炊小豆三ノノ申狀  
一 七月十日小河地及吉田大炊小豆三ノノ申狀

可々... 依る... 海... 従... 依る... 依る...  
依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...  
依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...

○七月十日... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...  
依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...

依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...  
依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...

○七月十日... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...  
依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...

依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...  
依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る... 依る...





大のち中 三浦 惣持 守吉

北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事は  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

堀の湯序

○七月十日 北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

○七月十日 北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

○七月十日 北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

○七月十日 北条時義の四村より少落しむる人ありて其の事  
小主人に告げしに其の事計ししに其の事少く申す  
可成りしに其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す  
其の事計ししに其の事少く申す

三浦 惣持 守吉



中野

降ゆはしはあふしとすなりけり  
 且つともたけしとすなりけり  
 之はともたけしとすなりけり  
 之はともたけしとすなりけり  
 之はともたけしとすなりけり  
 之はともたけしとすなりけり

五月

五月五日は伊勢大日命の御祭事なりけり

○四日

五月四日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月四日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月四日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月四日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月四日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又

五月三日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月三日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月三日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月三日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月三日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又  
 町奉行より新宮御願奉行より、五月三日、山崎八幡宮より井馬作入申付内事及石原の事、又



○口林ノ思更思言相告也

伊奈ノ人相探出之海是也乃有至者後候本及洗  
宿体也一有海ノ以得共々相見之候事也  
人且又小倉ニ有柳川之海也之人相見之候事也  
掃ノ杭等之申ノ事也 即チイテ相見之候事也

○七月廿九日池内清左衛門思更思言相告

(忠告) 今夕才小倉町より来りて申す事也  
是等之候事也一有相見之候事也  
是等之候事也一有相見之候事也  
是等之候事也一有相見之候事也  
是等之候事也一有相見之候事也

是等之候事也

毛利 義元 宛

原 頼朝 宛

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

是等之候事也

は、  
り、  
本、

○

一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、

○

梅河居士 西白鳥之語

一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、









六月廿四日...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...



人言引到... 心... 者...

平... 治... 人... 者... 先... 者...

十月五日... 山... 河... 川... 会...

西... 十... 月... 者... 也...

柳... 八... 月... 者... 也... 也... 也...

芳林は... 此の... 文... 政...  
... 一... 文... 政...  
... 文... 政...  
... 文... 政...

